

日 時：平成 28 年 3 月 2 日（水）18 時 30 分 ～20 時 10 分

場 所：飛鳥会館

対象地区：町居

参加人数：29 名

| 内 容 |
|--|
| <p>○駅前活性化について (市民からの要望・質問)</p> <p>スーパーの大型化に伴い、どこの市町村でも駅前に元気がない。駅前の活性化に対する市の考えはあるか。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・駅前がさみしくなっていることは、どこの市町村、地区でも起きている。駅前に限らず、町会内の店舗も減ってきている。個人店でも特色のある店は集客力があるが、買い物客は、郊外の大型店へ行ってしまふ。駅前は賑わい、集客できるようにしたいが難しい。・コンパクトシティ構想、ふれあいタウン構想などを取り入れた自治体もあったが、うまくいっていないようである。・今年からはイルミネーションの設置を行った。これから、どのようにお客さんにとどまっていたらいいのかを考えなければならない。 |
| <p>○ねふた展示館周辺の観光施設について (市民からの要望・質問)</p> <p>世界一のねふたを見に来た観光客が、ねふたを見た後に観光する施設が周辺に無いことから、市外に行ってしまう。コーヒーや食事をするところがあれば良いと思う。また、中央公園の近くに物産等を販売する店があればどうか。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・世界一のねふたを見た後、観光客をどのように留めるかは大きな課題である。市役所の庁舎を新しくした時に、観光を含めた形で庁舎建設ができるかどうか検討の余地がある。・平賀駅前には柏木農業高校の跡地や旧共済組合の跡地が空き地となっており、市役所新庁舎の建設候補地であるが、商工会のところに新庁舎を建設するとすると3,000㎡までしか建設できないという面積的な制約がある。・岩手県では、雪捨場として使用していた街中の空き地を民間で開発し、図書館、店舗を一体とした開発を行い集客できている事例がある。・平成28年度は、平賀、尾上、碓ヶ関駅前の活性化を目的として、商店街の方々に集客できるようなイベント等を開催してほしいとのことから、それぞれ100万円を予算化した。どのようなイベントを開催するのかを協議している。 |

・イルミネーションを飾り、街は明るくなったが、これだけでは人が集まらないことから、今年イルミネーションを活用したイベントを行う団体を支援しようとのことで、これについても予算化している。

○流雪溝について

(市民からの要望・質問)

10年位前、県道の一部の区間で流雪溝が設置された。その後、流雪溝の設置工事が行われていない。県道に設置していることから県の事業であると思うが、今後整備する計画はあるのか。

設置された流雪溝に水を流したこともあったが、このまま流し続ければ水が溢れると業者から言われたことがある。また、市から流雪溝を管理する組合を作るよう指導があったが、組合に参加する家庭が少なかったことから組合を作れず、よって水を流すのを止めたという経緯もある。

水を流した場合、排水を用水堰に流さなければならないという状況である。用水堰に流さなくてもいいように整備してほしい。

(市の回答)

- ・流雪溝は交通事故があったこともあり、県道の拡幅に併せて設置されたものと思われる。
- ・当該流雪溝は排水するところがないことが問題だと思うが、流末を六羽川まで持っていかなければならず、距離が非常に長いことも難しくしている。
- ・県への道路関係の要望は2箇所あるが、その中でも平賀東中学校までの道路は、交通安全の観点からも第一に整備してほしいと要望している。この路線の他にも吹上から柏木小学校への県道も狭く、大型車がすれ違えない状況であり、これも要望として出しているが、県でも予算取りが難しい状況にある。

(市民からの要望・質問)

立派な流雪溝があるのに、明るい見通しが無い。町居地区だけ整備が進んでいないのか。

(市の回答)

- ・県の事業に乗せ、県で整備していることから県に要望するしかない。市単独ではならない。県で流雪溝を設置するにしても流す水、流末がなければ設置しない。これらの問題は解決できることから、道路拡幅時に流雪溝を設置したと思う。しかし、現在の箇所を設置したところで工事が進んでいない状況である。

(市民からの要望・質問)

流雪溝の水を改良区の用水路に流すことはできる。平田森の方に行けば行くほど、水路が狭くなっている問題はあるが、改良区でさえ少しでも流していいとなれば、流雪溝を利用できるのだが。

(市民からの発言)

今の話では少しでも水を流雪溝に入れ、少しでも流雪溝から排水すれば使用可能ではないかと思うが、改良区の水路は流末に行くほど狭くなり、また枝分かれしている。雪を捨てる人たちで利用組合を作り、組合でルールを作ってやらなければならないことである。本来、組合で管理しなければならないことだと思う。流雪溝から水を用水路に流し、その管理を改良区でやればよいと言われるが、改良区では管理できない。

(市民からの要望・質問)

管理をしてほしいとは言っていない。水路を広げてほしい。

(市民からの発言)

通常の水量であれば、現在の水路で問題がない。暖気で水量が増えた時が問題である。誰がその時に管理をするのか。管理責任も出てくる。改良区で管理するとはならない。そこまで踏み込んで検討をしなければならない。

(市民からの発言)

当時の担当者の指導を受けながら、管理組合を作ろうと動いたが組合に入ろうという人がいない。誰も集まらないので、組合を作れなかった。よって、水を流せていないという状況である。

(市の回答)

- ・流雪溝の設置は、水源、流末の確保、また受益者が管理に責任を持ってもらうことが必要だが、これらを満たされないまま先に流雪溝が整備されたのだと思う。
- ・本町地区でも流雪溝を整備し、組合を作った。水をポンプで上げ、そのポンプの電気代を組合で支払っている。流雪溝沿線の家庭が全て組合に入ってもらえればいいのだが、組合に入らない家庭も出てきている。

○排水路について

(市民からの要望・質問)

町会要望で要望を上げた観光温泉の付近の排水路について、どのようになるか返事が来っていない。水路に流れがないのに、生活排水を流している家庭もある。

(市の回答)

- ・昨年のまちづくり懇談会でお話をいただき、現場を確認している。距離はあるが、事業実施しなければならないとは思っていた。しかし、今年度農林課で水路の泥上げを行ったところ水の流れが回復したとのことであった。水の流れがあるのであれば、直ぐに工事するとはならない。

○新館野木和町居線について

(市民からの要望・質問)

平賀東中学校への道路工事について、現状はどうか。

(市の回答)

- ・着手してから年数が経過しているが、地権者の方にねばり強く交渉し、できれば平成28年度中には完成させたいと考えている。県でも事業実施について、上位の方に位置付けてもらっている。
- ・沿線の道路は、さわらの木がせり出している箇所があり、市民から交通の障害になっているとの連絡をいただいている。市で地権者の方と協議をし、せり出した枝を伐採したこともあった。

○空き家の活用について

(市民からの要望・質問)

高齢者世帯、生活保護世帯の方と話す機会がある。町会内に魚屋が無くなった。買い物難民のために、市でも何か手助けできないか。

秋田県五城目町では空き家を利用して、行政で週に数回、店を開いているらしい。

(市の回答)

- ・高齢化社会のなかで、これから買い物難民が出てくる可能性がある。秋田県の状況も調べてみようと思う。家まで宅配で弁当を届けているところ、高齢者向けの会食サービスをやっているところがある。さまざまな方法があるなかで、平川市に何が合うか検討しなければならない。高齢者の門の前の雪を寄せる。買い物の代行をするなど、助け合いの方法はさまざまあると思う。
- ・大きな町会は大丈夫だと思うが、町会のなかには役員の担い手がいないというところも出てきている。このようなところは、2つ3つの町会が一緒になって1つの町会としての役割を果たしていく取り組みが必要である。全国的には140くらいの自治体で行われており、小規模多機能型地域自治組織という組織を作りながらコミュニティ活動を行っている。平川市でどのような形が良いのか、話し合いをしているところである。

○ふるさと納税について

(市民からの要望・質問)

ふるさと納税の申込者が1万人、寄附金額が1億円を超えたと聞いた。なぜこれほどまで伸びたのか。

(市の回答)

- ・1月末で寄附金額1億3,900万円、件数で1万1千件ほどの寄附をいただいた。
- ・市長に就任した頃は、年間7件しか寄附件数がなかった。平川市の物産をアピールして

いかなければならないとのことから、寄附者へお礼する品のメニューを増やした。昨年の初めからは、メニューにりんごを加え、また夏場には数量限定であるが津軽のももを特産品として事業者から提供してもらい、好評をいただいている。

- ・昨年11月からは、ふるさと納税のポータルサイトに登録した。また、12月からはクレジットカード決済も導入した。サイトの使用料、特産品の品代、送料を差し引くと寄附金額の46%ほどが市の財源として残る。平成28年度はこの財源を利用し、ふるさとひらかわ応援事業ということで、学習支援、農家支援などに使わせていただく。

○選挙の投票方法について

(市民からの要望・質問)

平川市は、投票率が県内でも低いほうである。現状で病院、施設等では投票ができるが、この他にも在宅投票ができるようにできないか。

(市の回答)

- ・今年の参議院議員通常選挙からは、有権者の年齢が18歳以上になる。少しでも政治への関心を高めてもらいたいとのことで、去年は小学生を対象とした子ども議会を開いた。子ども議会はこれからも続けていきたい。
- ・在宅投票ということであるが、投票率を上げるためにどのようなことができるか検討しなければならない。

○通学路の排雪について

(市民からの要望・質問)

町居地区を通る県道に歩道が設置されている。歩道は除雪されているが、車道と歩道の間を除雪した雪が高く積まれ、その上を小学生が歩いている。以前、その雪の上から小学生が落ち、危うく車に引かれそうになった。歩道と車道間の雪を排雪してほしい。

(市の回答)

- ・歩道などの通学路については、地域、学校などとも協議し、危険な箇所であれば排雪するようにしている。歩道は除雪されているとのことで、小学生に積まれた雪の上を歩かないよう、教育委員会を通し指導していく。
- ・除雪した雪の全てを排雪できれば一番いいのだが、莫大な経費がかかる。教育委員会とも相談をしながら交差点等の見通しが悪く、交通安全上危険な場合には排雪を行っている。

○高齢者ふれあいセンターの温泉利用料について

(市民からの要望・質問)

他の人から聞いた話であるが、高齢者ふれあいセンターの温泉は無料のはずなのに、温泉利用料として100円取られている人がいるらしいが本当か。

(市の回答)

- ・今も無料である。調べさせてほしい。
- ・尾上、碓ヶ関にも温泉があるが、施設も老朽化してきており、ポンプの修理など経費が嵩んできている。地域の人が使っている温泉を今後どうすればいいか、行政の悩みである。他地域では無料という温泉がない中で、高齢者ふれあいセンターの温泉をいつまで無料とするか苦慮している。
- ・ふれあいセンターの温泉は市でやっているが、利用者から料金を徴収していない。当初から無料としている。担当課に確認をし、町会長に回答する。

(後日確認した結果)

- ・高齢介護課が確認したところ、2年前にシルバー人材センターに委託すれば、100円の利用料となるという噂があった。ふれあいセンターの利用者に直接話を聞いたが、料金を徴収されていない。

○雪捨場について

(市民からの要望・質問)

総合運動場を建設している場所が雪捨場となっていたが、運動場ができた後、代替地としてどこかに雪捨場を設けるのか。

(市の回答)

- ・大雪で豪雪対策本部を作った場合には、臨時的に運動場建設地の場所を開放し雪捨場としていた。代替地として県に要望し、雪捨場として松崎の河川広場を使用したいとのことで動いており、河川敷へ車が入れるようにしている。今年は幸い雪が少なかったことから開放していないが、もし豪雪となっていれば今年1月から開放する予定で動いていた。運用については、開放する状況になった際にお知らせする。

○避難所の発電機について

(市民からの要望・質問)

町居地区は飛鳥会館が災害時の避難場所となっているが、避難所に非常用発電機がない。発電機を設置してほしい。

(市の回答)

- ・市では、各町会に自主防災組織を作るようお願いしている。自主防災組織育成事業があり、自主防災組織を作ったところには発電機、投光機等が配備できるように補助金を出している。自主防災組織を設立すれば、その購入費を補助している。町居町会ではまだ、自主防災組織が組織されていない。是非、組織していただきたい。

○人口減少対策について

(市民からの要望・質問)

どこの市町村でも人口の減少が問題となっている。世帯数は増えているが、死亡者の増加、出生者の減少、また転出者の増加、転入者の減少ということで、このままでは益々人口が減っていく。人口が減るとさまざまな問題が出てくると思われる。人口減少を食い止めるために、市の施策は。

(市の回答)

- ・年間250人位ずつ、人口が減っている。自然的減少、社会的減少の2つの大きな要因がある。社会減、自然減に重点をおいた施策をやっていく。
- ・地域に根ざす安定した仕事作りということで、この地域で仕事ができる環境づくりをしていく。地元の会社に地元の人を雇用してもらえりような事業を実施する。農業はもちろんであるが、製造業などに従事する人も増やしていきたい。
- ・水田を畑作に転換するための補助事業については、これまで国で4分の1補助していたが、ふるさと納税の財源を当てて、これに加え市で4分の1を嵩上げ補助する。また、果樹安定対策に関する事業で、国で2分の1補助であったものに加え、市で4分の1を嵩上げ補助する事業を予算に計上している。議会で予算案が通れば、実施することとなる。また、6次産業化整備事業、駅前通りにぎわい創出事業、ひらかわ立地企業支援事業を行いながら地域に根ざした仕事作りを支援していく。
- ・東洋経済新聞社の調査では、平川市が県内でも一番住みやすい街とされている。これをさらに進めたいということで、いつまでも住み続けたいまちづくりのための事業を実施する。新しく宅地開発する民間の事業者に、道路、側溝工事費に対し助成する事業や、バス運行への補助、またプロモーションビデオを活用しながら東京23区全国連携プロジェクトへも参画していく。
- ・自然減対策として、若者世代の希望がかなうまちづくりとして、特定不妊治療、こども医療費給付事業、保育料軽減事業、移住者・子育て住宅支援事業等を行っていく。
- ・健康で心穏やかに暮らせるまちづくりとして、健康ステップアップ事業、骨髄ドナー支援事業などを行っていく。健康寿命を青森県一にしたいということで、昨年市民大会を開き健康づくり宣言をしたが、これがスタートである。まずは、健診を受けてもらう、生活習慣を改めてもらうようにしていただきたい。
- ・人口が減少することは避けられないが、減少幅を少なくし、平川市に住む人を外から呼び込んで、自治体として機能していけるような施策を行っていく。
- ・人口減少対策の施策の基礎となっているのが、平川市人口ビジョンである。現在の市の人口は3万2千人くらいであるが、人口はだんだんと減ってくる見込みである。国からはそれぞれの市町村で、2040年、2060年における目標を定めるようにとされている。国の推計では、2060年には平川市の人口が2万2千人にまで減る見込みであるが、市としては2万5千人の人口を維持したいという目標を立てている。人口の減少幅を抑えるような施策を進めていく。

- ・人口減少が進むなかで、子どもの数が少ない。現在、市内全体で1年間に産まれる子どもの数は200人である。平川市の合計特殊出生率は1.28であり、これを5年後に1.45位まで高めていきたい。そのためには、若者に平川市に入って来てもらえるよう、また若者に残ってもらえるような施策をやっていく。

○通学路の除雪について

(市民からの要望・質問)

照国橋から八木橋建設までの道路に歩道がなく、除雪した雪が道路横に積まれており、狭くなっている。また、その箇所だけが除雪されておらず、その前後は除雪されている。距離もそれほどないのだから、歩道を除雪した際に一緒に除雪できないか。

(市の回答)

- ・車道の除雪した雪を持っていくところが確保できないためだと思う。雪を寄せる場所がなく歩道があるのに除雪できない場所等もある。すぐに全ての問題を解消することは難しい。
- ・子ども達の安全が第一である。除雪されていないことについて調査を試みる。